

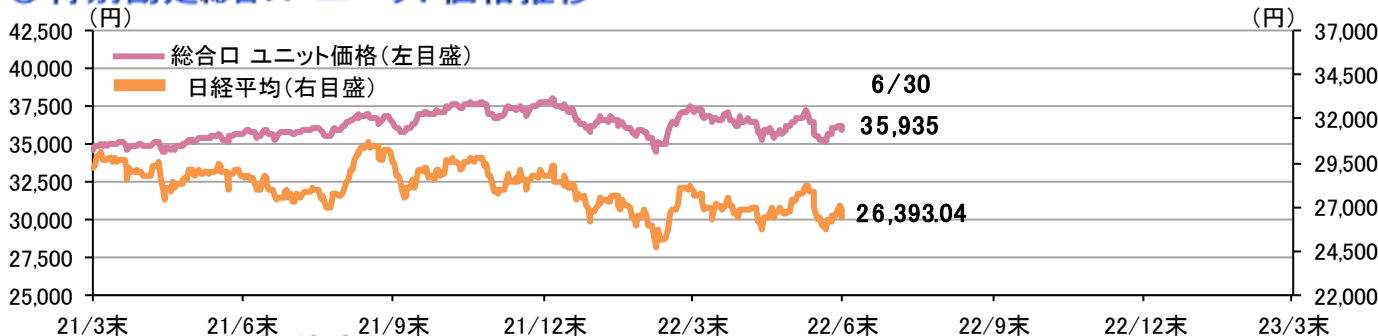
## 特勘☆ユニット価格速報

基準日:6月30日

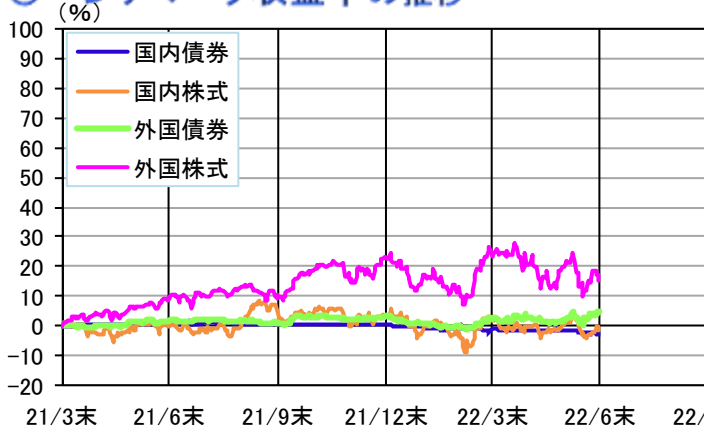
2022年7月1日号

特別勘定運用部

## ◎特別勘定総合口 ユニット価格推移



## ◎ベンチマーク収益率の推移



## ◎市場実績値

|             | 2021/3/31 | 2022/3/31 | 2022/5/31 | 2022/6/30 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 日経平均(円)     | 29,178.80 | 27,821.43 | 27,279.80 | 26,393.04 |
| TOPIX(ポイント) | 1,954.00  | 1,946.40  | 1,912.67  | 1,870.82  |
| 新発10年国債(%)  | 0.090     | 0.210     | 0.235     | 0.225     |
| NYダウ(ドル)    | 32,981.55 | 34,678.35 | 32,990.12 | 30,775.43 |
| 米国10年債(%)   | 1.74      | 2.32      | 2.84      | 2.97      |
| 独10年債(%)    | -0.29     | 0.54      | 1.12      | 1.33      |
| 円/ドル(円)     | 110.50    | 121.37    | 128.64    | 135.85    |
| 円/ユーロ(円)    | 129.87    | 135.04    | 137.81    | 142.02    |

\* 2021年4月からの累積収益率です。  
 【ベンチマーク】■国内債券…NOMURA-BPI総合 ■国内株式…TOPIX(配当込み)  
 ■外国債券…FTSE-WGBI(除く日本、円ベース) ■外国株式…MSCI-KOKUSAI(円ベース、配当再投資、GROSS)

## ◎各口のユニット価格の伸び率と推移

|              | 月次6/30まで |        |        | 年度累計    |        |        | ユニット価格    |           |           |
|--------------|----------|--------|--------|---------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
|              | ファンド     | ベンチマーク | 超過収益   | ファンド    | ベンチマーク | 超過収益   | 2022/3/31 | 2022/5/31 | 2022/6/30 |
| 総合口          | ▲ 1.39   | ▲ 1.50 | 0.11   | ▲ 3.16  | ▲ 2.92 | ▲ 0.24 | 37,107    | 36,443    | 35,935    |
| 第2総合口        | ▲ 0.85   | —      | —      | ▲ 1.61  | —      | —      | 12,872    | 12,773    | 12,665    |
| 第3総合口        | ▲ 4.00   | —      | —      | ▲ 7.38  | —      | —      | 9,842     | 9,496     | 9,116     |
| 債券総合口        | ▲ 2.25   | —      | —      | ▲ 3.30  | —      | —      | 10,576    | 10,462    | 10,227    |
| 年金債務対応総合口    | 0.00     | —      | —      | ▲ 0.06  | —      | —      | 12,402    | 12,395    | 12,395    |
| ヘッジ外債総合口I型   | ▲ 1.97   | —      | —      | ▲ 4.76  | —      | —      | 9,863     | 9,583     | 9,394     |
| グローバル株式総合口I型 | ▲ 0.59   | ▲ 3.25 | 2.67   | ▲ 8.97  | ▲ 5.45 | ▲ 3.52 | 9,139     | 8,368     | 8,319     |
| 国内債券口        | ▲ 0.79   | ▲ 0.91 | 0.12   | ▲ 1.15  | ▲ 1.30 | 0.15   | 15,670    | 15,614    | 15,490    |
| 国内株式口1型      | ▲ 2.55   | ▲ 2.05 | ▲ 0.50 | ▲ 4.68  | ▲ 3.65 | ▲ 1.03 | 26,532    | 25,951    | 25,290    |
| 国内株式口2型      | ▲ 2.20   | ▲ 2.05 | ▲ 0.15 | ▲ 4.09  | ▲ 3.65 | ▲ 0.43 | 24,135    | 23,670    | 23,149    |
| 国内株式口パッシブ型   | ▲ 2.00   | ▲ 2.05 | 0.05   | ▲ 3.64  | ▲ 3.65 | 0.01   | 35,564    | 34,969    | 34,268    |
| 外国債券口        | 2.98     | 2.97   | 0.02   | 2.38    | 2.73   | ▲ 0.35 | 31,512    | 31,327    | 32,261    |
| 為替ヘッジ外債口     | ▲ 1.31   | ▲ 1.38 | 0.07   | ▲ 5.85  | ▲ 5.58 | ▲ 0.27 | 12,099    | 11,542    | 11,391    |
| 外国株式口        | ▲ 2.85   | ▲ 3.56 | 0.71   | ▲ 5.84  | ▲ 6.14 | 0.30   | 71,042    | 68,853    | 66,893    |
| 外国株式口パッシブ型   | ▲ 3.64   | ▲ 3.56 | ▲ 0.09 | ▲ 6.19  | ▲ 6.14 | ▲ 0.05 | 70,267    | 68,406    | 65,914    |
| 新興国株式口       | ▲ 1.65   | ▲ 1.33 | ▲ 0.32 | ▲ 2.38  | ▲ 0.76 | ▲ 1.63 | 26,643    | 26,444    | 26,008    |
| 短期資金口        | 0.00     | ▲ 0.00 | 0.00   | 0.00    | ▲ 0.01 | 0.01   | 10,312    | 10,312    | 10,312    |
| 指数連動型配当口2021 | ▲ 5.76   | —      | —      | ▲ 39.76 | —      | —      | 8,089     | 5,171     | 4,873     |

\* ベンチマークデータは速報値です。  
 ※本資料は当社の運用実績をお知らせするために作成されたものであり、保険募集を目的とするものではありません。  
 ※市場データについては当社が信用できると判断した情報源より作成しておりますが、正確性・完全性について当社が保証するものではありません。  
 ※最終ページのご連絡事項についてよくお読みください。  
 ※上記インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、当該インデックスの公表元またはその許諾者に帰属します。  
 なお、これらの公表元または許諾者は、当該インデックスを利用した当社の事業活動等に関して一切責任を負いません。  
 ※NOMURA-BPI総合は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。  
 なお、野村證券株式会社が、対象インデックスを用いて行われる当社の事業活動・サービスに関して一切責任を負いません。

第一生命保険株式会社

お問い合わせ先: 特別勘定運用部  
TEL 050-3780-1007

## ◎6月 運用コメント

□総合口 ユニット価格伸び率 単月 ▲1.39% / 年度累計 ▲3.16%

国内株式・米国株式は下落、国内金利は低下・米国金利は上昇、ドルは対円で上昇

### ●国内株式

～世界的な景気減速懸念の高まりなどを背景に下落

- 国内株式は、外国人観光客の受入再開や中国経済の正常化期待、円安による業績改善期待等を背景に上昇して始まりましたが、世界的な景気減速懸念の高まりを受けて投資家のリスクセンチメントが悪化したことなどから下落に転じました。その後、自律反発を見込んだ買い等が優勢になる局面もあったものの、景気減速懸念等が重しとなり、月を通じてみると国内株式は下落して終わりました。

### ●国内金利

～日銀が現行の緩和的な金融政策の維持を決定したことなどから低下

- 国内金利は、米国金利の上昇や、日銀の金融政策修正に対する思惑が高まったことなどを背景に上昇して始まりました。その後、10年国債利回りは0.25%を上回る局面もありましたが、日銀が5年超10年以下のゾーンで臨時の国債買入オペを実施し、金利上昇を抑える姿勢を示したことや、中旬に開催された日銀金融政策決定会合で現行の緩和的な金融政策の維持が決定されたことから低下に転じました。月末にかけては、国内金利は概ね横ばいで推移し、月を通じてみると低下して終わりました。

### ●米国株式

～インフレのピークアウト観測の後退や世界的な金融政策引き締めによる景気減速懸念から下落

- 米国株式は、月初は概ね横ばいで推移しましたが、10日に発表された消費者物価指数が市場予想を上回り、FRBの利上げペース加速に対する懸念が高まったことや、欧米各国の政策金利の引き上げなどを背景に世界的な景気減速懸念が高まったことなどから、大きく下落しました。月末にかけては、発表された経済指標で消費者の期待インフレ率の低下が示され、FRBの過度な利上げ観測が後退したことなどから上昇しましたが、月を通じてみると下落して終わりました。

### ●米国金利

～FRBの利上げペース加速に対する懸念が高まったことなどを背景に上昇

- 米国金利は、発表された雇用統計等の経済指標が市場予想を上回ったことなどから上昇して始まりました。その後も、ECBが積極的な金融政策正常化スタンスを示したことや、消費者物価指数が市場予想を上回り、FRBの利上げペース加速に対する懸念が高まったことなどから更に上昇幅を広げ、10年国債利回りは一時3.4%台後半まで上昇しました。中旬以降は、FOMCで0.75%の利上げが決定されたものの想定通りの結果であったことや、発表された経済指標が景気減速を示唆する結果であったことなどから低下に転じたものの、月を通じてみると上昇して終わりました。

### ●為替

～日米金利差の拡大等を背景に円安ドル高

- 為替市場では、米国金利の上昇による日米金利差の拡大や、資源価格の上昇を背景に円安ドル高で始まりました。その後も、日米の金融政策の方向性の違いが意識されたことや、景気減速懸念の高まりなどを背景に投資家がドルを選好する動きが強まったことなどから、円安ドル高が進行し、ドル円は一時137円台の水準に達するなど、月を通じて円安ドル高基調で推移しました。

### 【投資行動】

国内株式のアンダーウェイト、外国株式のオーバーウェイトを継続

### 【今後の見通しと運用方針】

足元では高水準のインフレの継続等を背景に、世界的な景気減速への警戒感が高まっているものの、株式市場におけるバリュエーションも景気減速リスクを相応に織り込んだ水準まで低下していることなどから、今後は株式市場の回復が期待されます。ただし、短期的には市場のボラティリティが高まる局面もあるものと想定されます。このような環境下、国内株式をアンダーウェイトとし、外国株式をオーバーウェイトとします。ただし、ウクライナ情勢や中国経済の動向、金融政策見通し等を慎重に判断しながら、機動的に各資産のウェイトを調整します。

※本資料は当社の運用実績をお知らせするために作成されたものであり、保険募集を目的とするものではありません。  
※市場データについては当社が信用できると判断した情報源より作成しておりますが、正確性・完全性について当社が保証するものではありません。  
※最終ページのご連絡事項についてよくお読みください。

**第一生命保険株式会社**

お問い合わせ先: 特別勘定運用部  
TEL 050-3780-1007